

2018年4月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 4月えんだより

年主題 『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』

年主題聖句 「愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、
わたしたちも互いに愛し合うべきです。」
＜ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節＞

暖かな日ざしを感じます。ようやく春の季節を迎えました。皆様、ご入園、ご進級おめでとうございます。こうした節目に振り返りますと、子供達が大きくなったことを感じられる保護者の皆様も多いのではないのでしょうか？益々子供達の「いのちの根を伸ばす」新たな生活、新たなクラスでの園生活へのご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

さて、神戸市内でも色々な地域に多くの園が創設されました。家の近隣に保育園ができますと、車の出入りや子供の声が苦情になることが新聞でも報道されています。子供は大切な存在で、愛らしい存在である、一方で子供の声が集団になるとうるさく感じる方がいることも否めないのが事実です。4月の聖句が語られた、2000年前の社会は、子供は、無力で無価値で、とるに足らない小さい者として、ないがしろにされることが多かった時代です。そんな時に、人々の病を癒し、人々の救い主として崇められていたイエスが自分の町に来たとしたら、誰も自分の大切な子供にも触れていただき、祝福して欲しいと思うのが当然でありましょう。そんな時、イエスの傍にいた弟子達は、子供達を連れてくる親達を制止したのです。その時に、弟子達を叱った言葉が「子供達をわたしのところへ来させなさい！」と、そして来る子供達一人ひとりに、手を置いて祝福されたのです。そして、この後「神の国はこのような者達のものである」と言ったのです。これは「心を入れ替えて、子供のように純粋無垢になりなさい」といっているのではありません。「自分の弱さ」「己の無力さ」知り、自意識過剰であった弟子達（大人達）の心に対して、謙虚になり神により頼みなさいと示したのです。

神様の愛は良い子であれば愛してあげる、何かができれば愛してあげる。という条件付の愛ではありません。何かができる、できないではなく、その存在のありのままを受け入れて愛してくださるのが神の愛である。子供が安心して育つには、この全ての有りのままを愛し続けることが大切であり、神様自身が願っていることをしっかり心に留め、一年の歩みを始めていきましょう。

4月の聖句「子供たちをわたしのところへ来させなさい。
…そして子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。」
＜マルコによる福音書 10章 14～16節＞

4月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	おはよう	であう
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 自分が受け入れられていると感じ、安心する * 新しく出会った人やものに親しみを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> * 保育者の姿や祈りを通して神様と出会う * 友だちや保育者に親しみをもつ * 好きなあそびを見つけ安心して過ごす
讃美歌	ことりたちは こども改10	ことりたちは こども改10